

令和4年度の全日制学校評価(結果)

ア 自己評価結果等

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>ア 「スクールポリシー」の「目指す生徒像」を意識し、あらゆる教育活動を通し、他者と関わる力を身につけさせ、生徒の主体性、自尊感情、他社と結び合う心を育てる。</p> <p>イ 「授業参観週間」「高校生のための学びの基礎診断」「牧高パワーアップアンケート」の活用と有効的な教科会の運営を通して、誰もが「よりよい授業」を目指す本校の文化を維持する。</p> <p>ウ 新学習指導要領についての学びを深めるとともに、校内研究体制を確立する。</p> <p>エ 創立100周年に向けた取組を活用し、地域への積極的な発信に努め、さらに地域への還元に取り組むことによって「小牧高校の良さ」の継続とさらなる発展を目指す。</p> <p>オ 教育活動の見直しや業務の精選とともに、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高めるだけでなく、「組織の力」を高め、多忙化解消を推進する。また、困ったときに助け合える人間関係づくりに努める。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>学習指導 (教務部) (各教科会) (各学年会)</p>	<p>授業に臨む態度の育成 (学校評価アンケートにおける「家庭で学習するように十分指導していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p> <p>学習意欲の向上</p> <p>基礎学力の定着</p> <p>授業力の向上 (学校評価アンケートにおける「わかりやすい授業を心掛けていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業準備の定着を図る。 チャイム後、すぐに授業を開始できるようにする。 授業ガイダンスを通して、学習の目的、授業の受け方、予習・復習の仕方について、しっかり説明する。 習熟度別授業などの生徒の学力に応じた授業展開を工夫し、授業内容の理解度を高める。 計画的な確認テストを実施し、生徒の理解度を把握する。 学びの基礎診断(スタディサポート)を活用し、予習、検査、復習のサイクルをしっかりと構築させる。 授業参観週間の活用、教科会における授業研究を通して、教師の授業力向上を図る。 牧高パワーアップアンケートの結果を分析し、授業改善に役立てる。 新教育課程実施に向けて各教科で準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおける「家庭で学習するように十分指導していると思うか」の回答に「思う」「少し思う」が74%(昨年71%)であり、重点目標を上回ることができた。 また、各学年においても昨年度より向上することができており、次年度以降さらに向上できるよう各教科と連携していきたい。特に第1学年では80%(昨年73%)に達しており、家庭での学習が定着していると感じる。 その反面、第2学年は69%(昨年65%)と低調であり、第2学年の指導が次年度の課題として挙げられる。 学習意欲の向上として、各教科において習熟度別授業が定着してきており、効果的な授業を実施することができた。 基礎学力の定着のため、日常の授業に加え、定期考査や課題考査、学びの基礎診断、考査前学習会、スタディノートの活用、個別学習指導など丁寧な指導が行われている。 学校評価アンケートにおける「わかりやすい授業を心掛けていると思うか」の回答に「思う」「少し思う」が82%(昨年79%)であり、昨年度よりも向上し、重点目標を大きく上回ることができた。 また、牧高パワーアップアンケートは今年度よりGoogleFormsで実施したことで詳細に分析することが可能となった。

<p>生徒指導 (生徒指導部) (各学年会)</p>	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <p>情報モラル・情報リテラシーを高める指導の充実 (学校評価アンケートにおける「生徒のインターネット上のルールやマナーについて指導をしていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p> <p>交通事故防止と交通(社会的)マナーの指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席の減少を目指す。安易な欠席、遅刻をさせない。 5分前行動の定着。 遅刻防止週間の設定実施。(学年との連携) 授業規律の確保や怠学の防止。(適応指導) 携帯、スマートフォンの校内における使用規定を遵守させる。 情報モラルに関する講話やスマホPC使用ガイドライン7(啓発資料)を活用した指導を行う。 情報リテラシーを高める指導として、生徒自らが課題を解決するための情報を収集整理し、それを発信させる指導を行う。 登校時の自転車による事故防止教育 迷惑行為等のマナー教育 「学警連携」地域、警察との連携 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、欠席・遅刻は増加している。しかし、遅刻防止指導に努めた。遅刻防止週間は6月、10月、1月に実施し、効果があった。 5分前登校(行動)は定着した。 授業規律は全体として確保されている。落ち着いた教室環境が維持されている。 インターネット利用安心講話は、学校独自の作成資料で各クラスICTを活用した講話を実施。効果があった。 校内の使用規定や、使用マナーについても適切に指導しているが、スマホの使用やSNSへの投稿に関して、入学してくる生徒の規範意識は年々下がっている。タブレット導入によるルールの周知徹底による環境整備がさらに必要。 ガイドラインの内容は適切である。ほとんどの保護者の方はガイドラインを認識されている。生徒の意識向上が課題である。 交通事故件数は減少傾向。交通安全講話は、各学年ごとの独自作成資料で講話を実施。効果があったといえる。 交通マナーに関する苦情は少ない。 事故防止の啓発資料も適宜発信した。 警察との連携活動をおこなった。
<p>進路指導 (進路指導部) (各教科会) (各学年会)</p>	<p>3年間を見通した進路指導の推進 (学校評価アンケートにおける「必要な進路情報を提供していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望状況・推移を十分に把握し、行事等の企画・運営に生かす 教科・学年と情報を共有し、継続性のある指導を展開する。「学びの基礎診断」や模擬試験を有効活用する 新カリキュラムに対応した大学入試等の変化を注視する 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望状況を各学期当初に把握し諸施策に生かした。四大志向が高まり、一方就職希望は減少している。 「進路のしおり」や、各種ガイダンス、進路講演会等によって、適時的に確かな情報を生徒、保護者に提示してきた。外部講師を多く招くことができた。 今年度もコロナの影響を大きく受けたが、全体としては予定通り指導を行うことができた。 新カリキュラムが1年生から実施された。入試等の変化について今後も注視していきたい。
	<p>生徒の進路希望実現に向けての必要十分なサポートの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科・学年に成績等のデータ・情報を提示し、進路指導・学習指導をサポートする。担任が個々の状況を把握する手段として、各種デジタルのサポートの適時の活用を促す 入学試験や就職活動・試験に向けたきめの細かい指導を行う。面接や小論文についても、1年次からプロセスを踏んで指導するようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験や入学試験の各種データを教員、生徒、保護者に分かりやすく提供しよう努めた。 進路検討委員会、推薦委員会、担任会等も活用して、進学・就職指導の情報共有や方針の確認を行ってきた。 今年度もコロナの影響を受けたが、補習や模擬試験を適切に運営できた。 第一志望の進路先を大事にして、最後まで粘り強く努力する姿勢を培うことができつつある。今後もさらにそのような状況を形成していきたい。
<p>学校安全・保健 (生徒指導部)</p>	<p>健康や安全に対する意識の高揚と体力の</p>	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会を利用して、健康や安全につい 	

<p>(保健厚生部) (総務部) (各教科)</p>	<p>向上を図る</p> <p>生活習慣改善のための啓発活動を行う (学校評価アンケートにおける「生徒の健康状態を把握するとともに、十分な相談活動を行っていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p>	<p>て考えさせ、生命の大切さや安全のための実践的な能力を育成する。</p> <p>・保健だよりなどを通して健康に関する知識の向上を図る。</p>	<p>・ほぼ毎月保健だよりを発行し、健康に関する知識向上を図った。配信メールにより熱中症や感染症の注意喚起を行った。生徒保健厚生委員会では、朝食に関する調査を行い、生活習慣改善のための啓発活動を行った。</p>
<p>保護者連携 地域連携 (総務部)</p>	<p>家庭や地域社会との連携を図る (学校評価アンケートにおける「きずなネットでの欠席連絡、各種案内等の配布は便利だと思いますか。」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p>	<p>・学校の教育方針に対する地域や保護者の理解と協力を求める。</p> <p>・学校のHPの更新を随時行い、情報発信に努める。</p>	<p>・PTA総会、卒業式等の出欠をきずなネットのアンケート機能を使って返信できるように改め、保護者の利便性向上に努めた。また、様々な案内をきずなネットに添付して配信するように努めた。</p> <p>・学校評価アンケートにおける「きずなネットでの欠席連絡、各種案内等の配布は便利だと思いますか。」に対する回答が、「思う」「少し思う」合わせて90%を越える評価を得た。引き続き、保護者の理解と協力が得られるよう改善に努める。</p>
<p>学校行事 (生徒会)</p>	<p>学校祭の充実を図る (学校評価アンケートにおける「生徒が枚高祭に意欲的に取り組めるよう努力していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p>	<p>・各種委員会等を活用して、生徒の要望・意見を吸い上げることに努める。</p>	<p>・多くの学校行事でコロナ以前の形での実施に戻していくことができ、重点目標に掲げた数値を上回ることができた。</p> <p>・来年度は本年度の反省からさらに生徒の満足度を向上させたい。</p>
<p>図書館利用 (図書部)</p>	<p>図書館利用の充実を図る (学校評価アンケートにおける「魅力ある図書室作りに努めるとともに、十分な広報活動を行っていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p>	<p>・図書館行事の紹介や新着図書一覧の作成など図書だよりやHPを活用し、情報発信に努める。</p>	<p>・今年も「映画鑑賞会」や「読書週間」などの行事に加え、「図書委員おすすめ本」の掲示や「本のプレゼン大会」等、図書委員による情報発信を行うことができ、平日の図書館利用は増加傾向にある。</p> <p>・目標に掲げた数値は上回ることができたが、一方で生徒全体の読書離れは進んでおり、来年度はいっそう新着図書の充実や情報発信に励みたい。</p>
<p>いじめ・不登校 対策委員会</p>	<p>いじめの未然防止に係わる取り組みの充実</p> <p>いじめの早期発見、適切な事案対処</p>	<p>・朝礼や学年集会、ホームルーム活動において、いじめ防止をテーマとした活動を取り組み、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。</p> <p>・「学校生活に関するアンケート」(年2回実施)の実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、迅速な対応</p>	<p>・いじめや不登校の未然防止活動として、各学年において、ソーシャルスキルトレーニング(グループワーク・チームビルディング)を実施。成果があると考えている</p> <p>・風紀委員会(生徒)による人権ポスターづくりを実施。校内に掲示し、啓発活動を行った。</p> <p>・円滑な実施対応が行われている。</p> <p>・アンケート結果いじめの件数は年々減少。追跡調査やその指導は、もれなく対応している。</p>
<p>教職員の健康管理</p>	<p>勤務時間の適正管理及び長時間労働による健康障害防止</p>	<p>・毎月の在校時間状況記録の結果の活用</p> <p>・ストレスチェックの結果</p>	<p>2月時点で80時間超えの教員はのべ7名であり、昨年度同時期14名と比較すると半減した。前年度までの継続的な意識改革</p>

	果の有効的な活用	が定着してきた成果であると考えている。
総合評価	<p>・学校全体としては、学校評価アンケートに表れているように落ち着いた雰囲気です。8月に生徒全員へのタブレット端末の配布があり、教員全体でICTを活用した授業を工夫し実践している。教員相互の授業参観も活発で、年に2回実施される授業参観週間では多くの教員が参観をして工夫を周知し合っており、それが生徒に対する分かりやすい授業につながっている。今後も生徒にとって分かりやすい授業が展開できるよう教員同士の研鑽を継続していく必要がある。</p> <p>・生徒の最近の傾向として、学校に向かう意欲の低下があげられる。これは、コロナ禍の影響が大きいと思われるが、大変なことややりたくないことに立ち向かう意欲が感じられない。また、学校に通う意味を見出せない生徒も多くいる。その理由は「なんとなく」「どうしてか分からない」という曖昧なものであり、特別支援委員会等の支援を必要とする生徒も増加している。先生方の働きかけや家庭との連携により、チームで個々の生徒に対応する小牧高校の生徒指導の良さをさらに伸ばしていきたい。</p> <p>・昨年度「きずなネット」での欠席連絡や保護者連絡、今年度はGoogleフォームでのアンケート集約などを導入してきたが、保護者の方々にも便利だと受け入れていただいている。ICTに頼りすぎず、直接確認することも視野に入れながら、お互いの利便性を考えてよりよい活用法を構築していきたい。</p>	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来において「正解」のない社会を切り拓く力の育成 ・ 誰もが「よりよい授業」を探究する職場文化の維持 ・ 新学習指導要領施行に伴う実践と研究 ・ 伝統ある小牧高校の良さを意識した、地域への積極的な発信と還元 ・ 働きやすく、働き甲斐のある職場づくり
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度から「あいちラーニング推進事業」の重点校としてICTを活用した授業研究が実施されているが、本年度は英語科が2年生で研究授業を実施した。タブレットを活用し相互にスピーキングを録画しながら自分の発音を確認する展開であったが、生徒は恥ずかしがることもなく、慣れた様子で活用していた。普段からの授業での活用が生徒への定着を促すことや、視覚を使うことでより深い理解につながることを実感させる授業であった。 ・ 令和5年は本校の100周年に当たる。100周年の記念事業を生徒が主体となって実行する「生徒ファースト」で実施したいと考え、生徒有志の実行委員会を立ち上げた。地域のボランティア活動への参加を始め、小牧市の協力も得て小牧市のイルミネーションの企画に参加させてもらうなど様々な活動をこれから実施する予定である。 ・ 本校の教員は若手が多く、小さいお子さんを持つ家庭が多い。そのため、急な事態においても相互に協力し合う組織としての体制ができています。生徒の変化や行動を共有しあえる雰囲気があり、それが生徒への指導に役立っている状況がある。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用することは重要なことではあるが、ICTを使うことが目的ではなく、ICTを使ってどのように生徒に理解をさせるかということが目的である。また、新学習指導要領にのっとった授業が始まっているが、その成果がどのように出るのか注視する必要もある。牧高パワーアップアンケートや学校評価アンケートを活用し、授業改善や研究については、個人だけの実践で終わるのではなく、教員同士が共有しあえる研修体制を構築する必要があると考える。そのため、公開授業の実施や授業参観週間等の取組を今後も継続し実施し教員相互の意識を高めていく。 ・ 100周年記念事業を通して、小牧高校がさらに地域に認められる開かれた学校としての立場を確立していきたい。そのためにも生徒の活動を周知してもらえるよう、HPやメディアを使い発信する必要がある。 ・ 「チーム小牧」として教員間の連携を重視しながら、個々の生徒へのきめ細かな対応や、問題行動等の未然防止に主眼を置いた指導を継続していく。
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成…学校評議員4名、3年PTA役員4名、校長、教頭、事務長 ・ 評価時期…3月下旬

令和4年度自己評価【評価結果と課題】について（定時制）

<p>本年度の重点目標</p>	<p>(ア)「スクールポリシー」の「目指す生徒像」を意識し、あらゆる教育活動をととし、他者と関わる力を身に付けさせ、生徒の主体性、自尊感情、他者と結び合う心を育てる。 (イ) お互いの授業に関心を寄せ積極的に授業を見学し合うなど「よりよい授業」を探究する職場文化を維持する。 (ウ) 教科書採択の討議をはじめ新学習指導要領についての学びを深めるとともに、校内研究体制を確立する。 (エ) 高校卒業資格の授与にとどまらず、キャリア教育計画に基づいた就労支援・進学支援によって、定時制課程に対する地域からの期待に応える。 (オ) 教育活動の見直しや業務の精選とともに、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高めるだけでなく、「組織の力」を高め、多忙化解消を推進する。また、困ったときに助け合える人間関係づくりに努める。</p>		
項目(担当)	具体的目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>学習指導 (教務部) (各教科)</p>	<p>多様な生徒への対応と授業の充実 特別活動等による「在り方生き方教育」の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の生徒への対応の充実 ・外国人生徒対応の一層の充実 ・基礎学力不足生徒への対応の充実 ・総合的な探究(学習)への対応等、具体的な指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCとクラス担任、保護者との連絡等により、不登校生徒の減少がみられた。 ・学習支援や授業支援等は、外国人生徒教育支援員制度を活用した生徒にとって大変有意義なものとなった。さらに有効活用するための環境整備について工夫したい。次年度より設置される学校設定教科「日本語」における指導の充実を図りたい。 ・各教科による丁寧な指導により一定の成果はあった。しかし、数多くの学びの機会を活かせない生徒も一定数おり、対応の工夫が課題である。 ・生徒の実態に合った内容を分かりやすく伝えることができた。日本語力の向上だけでなく日本の文化や習慣を伝えることの一助にもなった。
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<p>基本的生活習慣の確立 生徒情報の精選と共有化 交通安全指導の充実 いじめに対する措置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者、早退者への指導の充実 ・欠課過多者への指導の充実 ・定期的情報交換会の開催 ・交通安全講話の実施 ・下校指導の実施 ・いじめ防止講話の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、早退の生徒に対しては、担任を中心に全職員で指導し、安易な遅刻・早退を減らすことができた。 ・欠課過多者に対しては、家庭への連絡を密にし、保護者にも協力をしていた。 ・生徒情報は、全職員で共有し、迅速な対応ができた。 ・交通安全講話などを通じて、交通ルールやマナーなどの指導したことで、昨年度よりも交通事故数を減らすことができた。 ・警察などの外部機関と連携し、近隣で交通事故が発生しやすい場所などの情報を収集し、生徒に周知した。 ・総合的な探究の時間を活用して、計画的に実施した。
<p>進路指導 (進路指導部)</p>	<p>進路意識の向上及び進路学習の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会 ・進路情報の提供 ・面接指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外でのボランティア活動についての講演会を聴くことで、生徒の視野を広げるとともに、キャリアを形成する上での刺激を与え、個々のキャリア発達に役立てることができた。今後も適切な外部講師がいれば、積極的に講演会を実施していきたい。 ・今年度は、専門学校体験講座を実施して、それぞれの学びや資格について、外部講師から直接の情報提供と指導を受けて、生徒個々が興味や適性について考える機会を提供することができた。次年度以降は、各進路別に卒業生から直接の体験談を聴くような場を設けたいと考えている。 ・就職、進学それぞれにおいて、4年生担任と手分けをして面談を継続的にを行い、約8割の生徒が卒業後の進路を決めることができた。残る未決定者については個々の事情は異なるが、次年度に向けてより効果的な方法やアプローチをこれからも模索していきたい。
<p>保健指導 (保健厚生部)</p>	<p>健康の増進及び相談活動の充実 環境教育の充実 健康障害防止の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の円滑な実施と治療勧告 ・学校カウンセラーの効率的な活用 ・節電、省エネを通じた環境意識の高揚 ・勤務時間の適正な管理 ・年次休暇の取得推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期の保護者会で、保護者への健康診断結果を通知することができた。通知できたことにより、治療報告などがスムーズに行えた。 ・生徒が抱える問題への対応や具体的な対策のアドバイスを受けることができ、生徒指導面で効果的であった。また、昨年同様外部機関との連携方策など、外部機関との連携が不可欠な事案も増えてきているので今後も、研究を進めたい。 ・SCや栄養士の講話や、総合における講話を通じて、環境意識を高められた。 ・勤務管理簿や割り振りを活用できた。 ・年次休暇の取得推進を図ることができた。
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導における個に応じた授業改善の推進について ・生徒指導における基本的生活習慣の確立について ・外国人生徒教育支援員の活動状況について 		